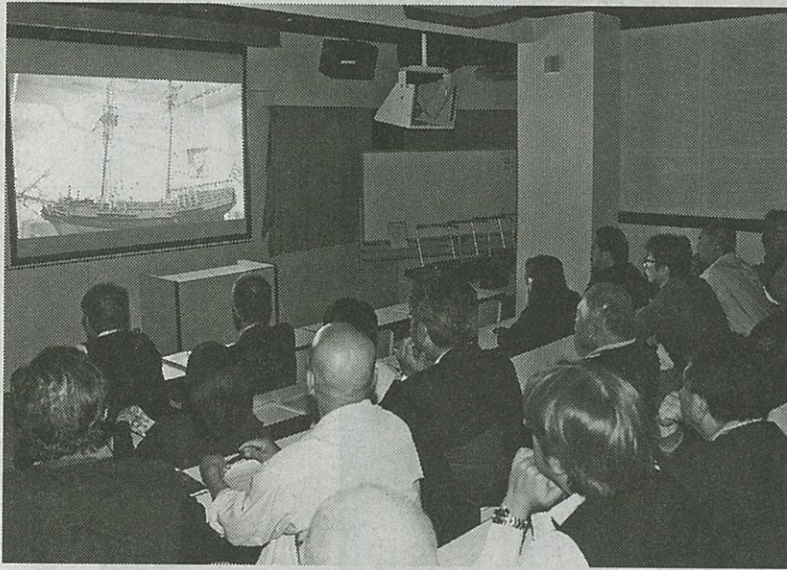


エ号のビデオ完成

串本で試写会 尚美学園大の学生制作

1890年に串本町檜野埼
沖で遭難したトルコ軍艦エル
トゥールル号の乗組員を紀伊
大島の島民が救助した史実
や、それがきっかけで生まれ
た両国の絆を紹介しようと、



完成したプロモーションビデオを観賞する参加者（串本町串本で）

尚美学園大学（埼玉県川越市）の定平誠教授（54）の研究室内の学生らが制作していたプロモーションビデオが完成し、8日に同町串本の町文化センターで試写会が開かれた。ビデオを作ることになった

のは、エ号を題材にした日本の定平誠教授（54）の研究室内の学生らが制作していたプロモーションビデオを作っており、定平教授が学生に話したところ、自分たちの手でこの史実を伝えたいと、ビデオを制作することになった。

学生らは事前に現地視察をし、企画・絵コンテを3カ月かけて創作。9月2～6日に同町を訪れ、田嶋勝正町長のインタビュ、橋杭岩や檜野埼灯台、トルコ記念館、エ号遭難慰霊碑などを撮影した。その時撮影した約6千枚の写真、約20時間の映像を約1カ月かけて編集し完成させた。

作品タイトルは「歴史と文化の街 串本町 知られざる史実 エルトゥールル号」。インターネット配信などをイメージした2分40秒のものと、展示会などで流すためにメッセージ性を高めた6分20秒のものを作った。撮影に参加したトルコ人留学生で、拓殖大学の大学院2年生のトゥールル・エイディシギンさん

（31）が訳したトルコ語のテロップも入っている。

試写会には定平教授ら教授3人と学生10人の他、町や観光協会、串本ライオンズクラブ、町商工会青年部、町議会などから計約50人が出席した。

上映に当たり、定平教授は「若者たちの目線で制作された作品。串本は知られざる史実があることなどポテンシャルが高いことを感じる。日本人としてそのことをもっときちんと伝えたいと、このビデオを作った」と述べた。

映像では、田嶋町長の語り に合わせ、町内の景色やエ号関連の施設などが映し出された。内容に合わせたオリジナル曲で、作品の世界観を引き立てている。上映後には大きな拍手が送られた。

田嶋町長は「町をきれいに映像化してくれていて素晴らしい。ファインダーを通して串本の自然や風土を見て、歴史を感じて映像にしていただけ、われわれも地元の素晴らしさを再認識できた。地域の歴史を掘り起こすことで活性化できるよう、今日参加された団体など力を合わせていけたら」と述べた。

ディレクターを務めた4年生の猪瀬友紀さん（22）は「この話を若い人たちに知ってほしい。撮影ではカメラアングルを工夫したり、魚眼レンズを使ったりして映像にメリハリをつけた。映像を見ながらうなずいてくれる人もいて、ちょっとほっとした」と話した。プロモーションビデオにも出演しているNPO「エルトゥールルが世界を救う」の富田博文理事（55）は「良い作品を作っていただきうれしいうれしいうれし」と喜んだ。

この映像は動画投稿サイト「ユーチューブ」でも見られる。DVDも作っており、定平さんは串本町など関係者に寄贈し、宣伝などに自由に使用してもらいたいと話している。